

生活の中に園芸を(三)

浅 山 英 一

子どものための花作り

Ⅱ秋からの準備をⅢ春になると全国どこでも、「さあ、春だから草花を植えましょう。たねもまきましよう」というわけで土に親しむ姿がみられます。結構なことですが、春になってから咲く花を植えるのでは、バンジーにしてもデージーにしても一株いくらかと計算するとかかなりの費用がかかります。もしその費用で秋にたねを買ってまいておくということなら百分の一くらいの経費で済むものを、秋には手をかける人が少ないものです。ヤグルマギク、フクロナデシコ、ナデシコ類などは丈夫で、かりにまき放しにしておいてもけっこう立派に花が咲いてくれます。

また、春になってからたねをまく草花類は、夏から秋にかけて咲く性質で日本中どこでもやってていることです。

草花類は四月から五月にかけて咲く花が圧倒的に多く、しかも

この頃に一ばん花がよろこばれ、かつほしがられるものです。

春になってはじめる仕事ももちろんやってよいのですが、それ以上に秋からも大いに準備しておいて春に備えたいものです。

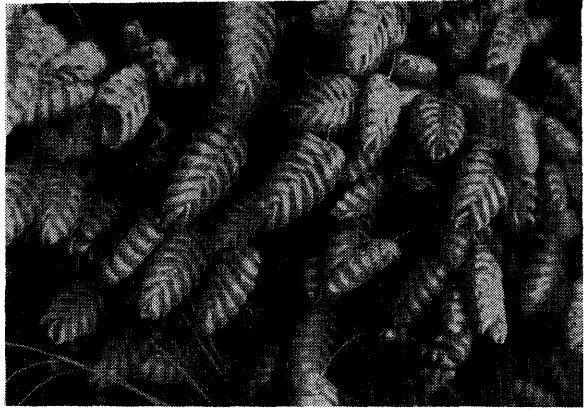
秋からといえばチューリップや水仙などはだれでも植えます。

それは植えつけが簡単で、植えこんでさえおけば、まず花は世話なく咲いてくれるからでしょう。秋まき草花類には霜よけと移植という手間をかけることを惜しまず、冬の間中春をまつこともずい分嬉しくたのしいことであることを経験したいものです。

Ⅱ子どもの喜ぶ花Ⅱきれいな花なら何でも子どもはよろこびます。眺めてよろこぶだけでなく、手をふれてもつとたのしい花はないかと考えてみて下さい。

秋まき草花

コバンソウⅡ雑草のように丈夫で、九月末にたねをばらまいておけば、冬は麦のように霜よけもいらすに五月にはコバンのよう



な実を垂れ下げて
ドライフラワーと
しておもしろいも
のです。ドライフ
ラワーとするに
は、花穂を幾分若
刈りとして、束ね
て逆さにつり下げ
ておけばよろし
い。雨の日や冬に
はこれさえあれば
花かごをつくった
りたのしいこと
です。

キンギョソウは一回たねで育てると二、三年は宿根草のように残っていて春と秋の二回に花が咲きます。花が咲いたら花の一つをつみとって花筒を指でかるく押さえるとバクリと口をあけます。金魚は口をバクバクあけるのでこれは金魚草などと同様です。子どもたちには印象強く名前も覚えられ、親しみが深くなります。花は次々に咲くので花をつみとって少しも苦になりません。

キンギョソウの実が成ったら、熟したころにその一つをとって

口を閉じたキンギョソウ

筒を押してとく



ルーペでのぞかせます。目と口と鼻がある、奇怪な顔をした怪物がどんなに子どもの目に映ることでしょうか。

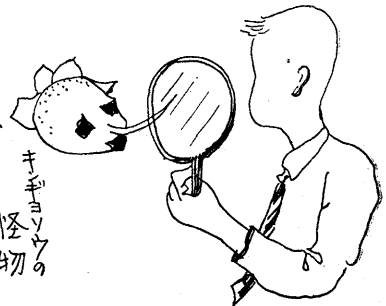
キンギョソウのたねは細かいので、いきなり花壇にまかず、箱や鉢にたねをまいておきそれが育ったら植えかえて間隔をひろげて植えなおし、冬はかんたんな霜よけをしておくとうれしい。種子の発芽は二五度C以上ではすこぶる成績が悪いので九月末涼しくなってきたらまくのがよろしい。

春まき草花

オジギソウは動きますのでさわつた葉がコックリとおじぎをするので子どもたちは家来ができたとおどろこび。五分もたてばもと通りに葉が開きます。花もかわい球状でピンク。小鉢に植えておいたものをおみやげに持ち帰らせるの

果実

キンギョソウの怪物



もたのしいこと。

センニチコウとムギワラギクとにかくまいておいて下さい。

夏には花が咲き、それが立派なドライフラワーになります。今日は千日紅のペンダント、明日はムギワラギクの髪かざり、男の子には帽子のアクセサリーや胸のくんしょうにこの乾燥花を利用するのがよいでしょう。

オシロイバナとジュズダマどちらも丈夫で路傍の雑草的な性質ですから、どこかにばらまきしておきます。

オシロイバナは種子の中に胚孔があり、白い澱粉をふくんでいるので女の子にはオシヤレの材料として水でねって鼻や頬ぺたを白くぬるのがおもしろがられます。黒いたねを糸を通してネックレスをつくることは昔からだれでもやっています。

ジュズダマもネックレスの良い材料です。

両種とも一度植えておけば毎年こぼれだねが次年に芽を出し絶えることがあります。

マツバボタンは夏の炎天に咲く美しい花ですが、夏の休み前にその一枝を切りとり、一日干してからコップの水にさし立てておくと間もなく白い根が出てきます。これを花壇や鉢に植えれば一人前の株になるので子ども心にも植物の生命の尊さがわかるように思えます。ふつうのマツバボタンは八重と一重で九月に咲き止みますが、ジュエルは十月一ぱいを咲きとおす大輪ですから、この方がたのしみです。ジュエルは耐寒性もつよく、庭の日溜り

に植えておくと根株が越冬して次年は立派な大株になります。

ヒヤクニチソウはオレンジ色や黄色のヒヤクニチソウは、満開をすぎたころその花びらをとって、台紙に写真のりで八枚はりつけて菊花模様とし、その上から再びのりをぬりつけて乾かしますと、いつまで経っても色と形が変わりません。ランドセルやカバンに貼りつけてもおもしろいものです。

写真のりの中に花びらを閉じこめたことになり、空気にふれないので変色もしません。赤や紫ピンクなどは色素の性質上半年もたつとすっかり変色してしまいます。

アサガオは大輪アサガオのたねをまいても百分の発芽をしない。あれは悪い古だねが入っているのだろうという人がいます。アサガオのたねは、ふつうにしまっておいても三年間は発芽能力をもっています。

芽の出ないたねがあるのは、硬種子かたねといって皮がかたく水を吸わないものがあるからです。一晩水につけてふくらんだたねはすぐにまき、ふくらまないでもとのままのたねは、種孔ねらな(発根部)をきいて、皮の一部をハサミで切るか、やすりやコンクリートにすりつけて表皮を一部削ってからまけばほとんど発芽します。

早く咲かせるには、双葉ふたば(子葉)がひらいたら、夕方五時には、りんご箱やダンボールの紙箱をかぶせます。夜はそのまま暗くしておき、朝は八時に覆いをとり外します。つまり一日に十五時間は暗闇とし、九時間だけ日光にあたるようにしてやるように

してやるのですが、これを三十五日つづけると、本葉が三枚出てそれに花が咲きます。

草丈がわずか十センチメートルのチビのアサガオに大きな直径十センチメートルの花が咲いて見事です。

苗は二、三本鉢にまいたまま育ててやります。たねまきの時期は五月上旬から。暗くするためにかぶせる箱は光のもしないように目ばりしておくとうよろしい。雨の日はこの短日にする仕事を止めてもかまいませんが、途中でやめてはいけません。ふつうに育てると子葉が出てから七十日もかかってようやく花が咲くもの

アサガオのチビづくり

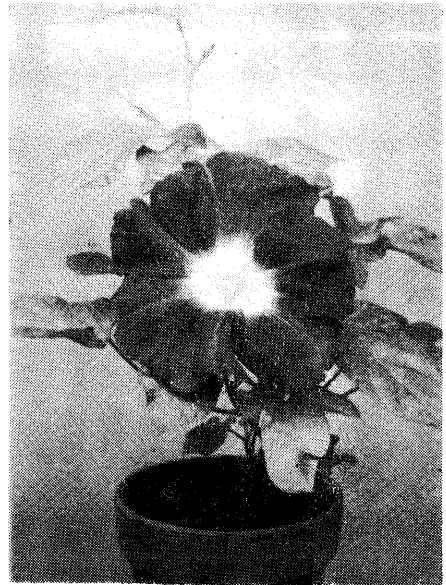


夕方五時から
朝八時まで
くらやみ

朝八時から
夕方五時まで
日まに
あてる

× 35日
花が咲く

あさがおのチビ作り



です。しかも、つるをそのままのばしたとあればつるは二階の屋根までとどいてしまいます。

たねまきはおそくとも五月一ぱいに終えるようになります。それよりおけると夏の休みにかかって鉢を自宅にもちかえられないとこのチビ作りができません。

アサガオはのびたから咲くというのではなく、日が短く、夜が長くなると花芽ができてそれが開くようになるものなのです。

コスモス||コスモスにはいろいろ種類があって、ふつうに秋に咲く種類はよほど日が短くならないと花が咲きませんが、アーリーセンセーションは六十日ほどたてば花が咲きます。咲かせたい日、つまり何かの記念の日などから、さかのぼること六十日前に

たねをまけばいいのです。

コスモスの中に黄花コスモスという一重、八重の種類があります。この花が咲いたとき花びらにタバコの煙を近づけてみると、黄色がみているうちに紅いほどのオレンジ色に変化します。オヤオヤといっているうちに全く美しい色に変わるのですから子どもたちには驚異の現象です。

タバコの煙のニコチンガスがアルカリ性であるから色素がアルカリ反応をおこしたのです。

これと同様に青い色のアサガオにタバコの煙を近づけるとますます青藍色になり、赤い花は紫に変わります。紅い花に酢をキリフキでふきかけるとますます紅くなり、青い花にかければ紫青色に変わります。

酸とアルカリの花色に及ぼす変化は、小さな子には訳はわからなくても厳然とした事実はいくつの年になっても覚えこんでいることと思います。

ヒマワリ||ロシヤヒマワリは二メートル、もつと高くなって咲くジャイアント、一粒のたねが、またたくうちに子どももの背丈をこえてのびるのでから丈くらべも追いつきません。

花が咲いたあと、大きな円盤が下を向いて子どもたちを見下すように熟してくると、やがてその種子は焙ってポツポツとたべるのでたのしみです。油も相当にあり栄養価も高いものです。

倒れぬように三方から竹の支柱をしておく必要があります。

ナタマメ||大きなマメ。ピンクと白があり、ピンクの豆はピンクの花、白いたねは白い花が咲きます。これまたのびるのが早く、実がなると大きなナタのようです。ジャックと豆の木の話をしてきかせるには、ナタマメを育てておいて見せるとよいでしょう。

子どもの見る花壇の花

もうせんのようにしきつめた花壇の花、きれいだなと大人も子どもも思います。しかし、大人は果たして子どもと同じ感懐をもつて見ることができるとでしょうか。

チューリップの単純な線、パンジーのニコニコした顔、それらの花をみる子どもの心はおどぎ話の国に在ることを想像してみて下さい。

かりに逆の立場から考えてみれば、デージー、パンジーのもうせん花壇をつくったとしても大人が立って花を見る角度と小さい子どもが見る角度はちがいます。ひろい花壇をみると、大人は子どもより大きな角度でみますから、大人はきれいだなと思っても子どもは小さな角度からみて、さほどにきれいとは思わないことでしょう。高いところからその花壇を見れば別問題ですが。

一方、一本のチューリップが咲いたとき、同じ位置に立って見る大人の目の角度と、子どもの低く見ている子どもの目の角度は



ちがいます。子どもはチューリップを正面からワイドで見ているも、大人は浅い角度で見られません。大人には興味がなくとも子どもには不思議の国のアリスのように、大人にはきこえない草花たちが話しているカン高い声さえもきこえるのにちがいがありません。

三角と四角と同じ花壇をつくるにも、材料費は最少限に使うことを大人は考えます。大人も子どもも錯覚があるのは当然ですが、子どもの錯覚は大人よりはげしいものです。

いま同じ面積の花壇が、三角と四角でできているとしたら三角形の花壇の方が大きく見えるものです。少ない草花材料を生かしてつくりたいとき、三角形の花壇をつくるべきです。これは労少なく効を大ならしめる方法です。

花壇は花ばかりを植えこむものとは限りません。砂も砂利も小

石を利用した花壇

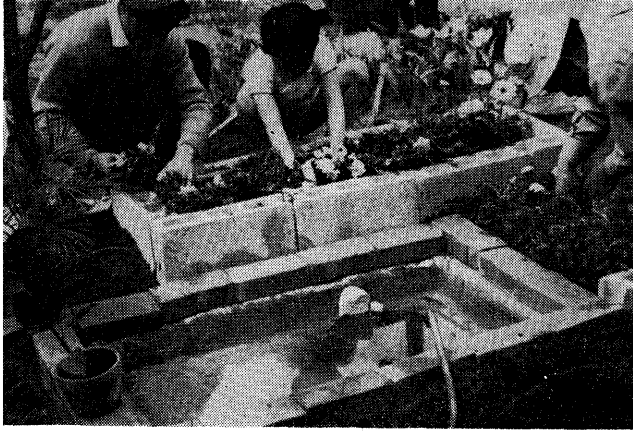


子どもは水が好き

石もつかってデザインするのもいいことです。円い扁平な石を使って夏はその表を白ペンキで塗って並べ、冬はその裏面にオレンジ色のペンキを塗って冬花壇のハボタンなどと一緒に模様を描いてみたらおもしろいでしょう。

庭には山あり池ありというのが、昔からの造園の手法にあらわれています。水がなくても枯山水の庭がよくつくられています。子どもは系統学や発生学の立場からみて大人よりは原始人に近い感覚をもっています。

ビニール池で水草をたのしもう



夏になれば水がほしくなるのは当然のこと。かんたんなビニール池などをつくって、水草を浮かべる庭の部分、即ち、解釈の方法をかえれば水面のある花壇をつくるのもおもしろいことです。ビニール池の子どもたちと一しょにビニール池はぜひつくりたいものです。またたくうちにでき、夏がすぎれば再びそこに花を植えたり、まいたりできるようにしておくことがおもしろい方法です。

ビニール池の深さは二〇―三〇センチあれば十分です。土を長方形に掘ったらビニールを平らにして周囲を立てて、煉瓦やブロックで土のくずれぬようにおさえます。水を入れれば即席プールというわけですが、収容する水草類

は次のものが多いでしょう。

ホテイソウ 水がつめたたく、肥料がないときはふくれて浮かびますが、鉢に粘質土で植えてプールの浅瀬に沈めておくと夏には花が立派に咲きます。紫色の花は一日花で、咲いた次の日には水中に没します。日光には極力あてるようにし、水温もなるべく高くしてやって下さい。

ウォーター・レタス 和名をボタンウキ草といい、ボタンの花のようにまたはレタスのように葉が重なり広がって水に浮かんでいる風情がおもしろく、一定の時期には、やたらに子をふきまします。花はめったに咲かず、かりに咲いてもひどくつまらぬものです。水上に浮く植物では形のおもしろいものです。

ウォーター・ポッピー 初夏の頃から水に入れてやると水面を這ってひろがり、夏の終りには黄色いケシのような三枚弁の花をひろげます。毎日数輪咲いてたのしいことです。これも水草、御多分にもれず十分日光にあてるのが大切です。

ヒメスイレン とても大きなスイレンはむりですからヒメスイレンの根茎を鉢植えとしておき鉢を水底に沈めておきます。

其の他の水草類 田圃から採集したクワイ、オモダカ、ナギ、ヒルムシロなど、小さな池は子どもたちのよい水あそびの場所となります。とくに都会の子どもたちは水のある花壇にはめぐまれることが少ないので少なくともビニール池の一つぐらいはつくって一夏をたのしく過ごさせてやりたいものです。

(千葉大学)